

平成30年度第2回北杜市郷土資料館運営協議会会議録

日 時 平成30年10月31日（水）午後1時30分～

場 所 北杜市郷土資料館情報室

出席委員 水原康道・島衛一・小池勝・柴山裕子・大柴久  
鈴木今朝和・跡部元・八巻與志夫（8名）

欠席委員 篠原旭・手塚和義・板山國夫・氏原宏幸（4名）

事務局 遠藤学術課長・学術課資料館担当 長谷川、小林

北杜市審議会等の会議の公開に関する要綱に基づき、公開とする。

傍聴人 0 / 10人

1. 開会

遠藤学術課長から、開会を宣す。

2. 会長あいさつ

水原康道会長から、あいさつを述べる。

3. 審議会の公開について

水原康道会長が議長となり、傍聴人がいないことを確認。

4. 会議録署名委員指名

小池勝委員並びに八巻與志夫委員の2名の指名を行う。

以下議事に入る。

5. 議事

(1) 平成30年度資料館事業について（中間報告）

長谷川：「平成30年度資料館事業 中間報告」について、資料により説明を行う。

議長：質疑または意見を求める。

八 巻：小中学校の利用状況は、昨年度と比較してどうなのか。

長谷川：郷土資料館では、小学3年生が社会科「昔の暮らし」という授業の一環で、三学期に多く来館される。

現状、利用状況は例年と少ないとはいえないが、今後、小中学校へさらなる働きかけをしていく。

八 巻：資料館外貸出事業の中で、大野城心のふるさと館へ顔面把手付深鉢のレプリカを貸し出しているが、なぜなのか。

長谷川：貸し出し期間が、大野城市と東京国立博物館の企画展と重なってしまったためであり、東京国立博物館へ原物の貸し出しを行った。

柴 山：図書館ロビー展の開催について、今日ここで初めて知った状況である。

もっとPRをしていく必要があるのではないか。

長谷川：ロビー展示は、金田一図書館のほかに、ライブラリーはくしゅうでも計画されている。さらなる周知をしていく。

議長：他に質疑または意見はないか。なければ次の議題へ。

## (2) 平成31年度資料館事業（案）について

長谷川：「平成31年度資料館事業（案）」について、資料により説明を行う。

議長：質疑または意見を求める。

八 巻：30年と31年の事業数や事業月数を見比べる中で、資料館の体制づくり（職員の配置等）をどう考えて計画しているのか。

長谷川：事業数自体は、例年とさほど変わらない。

八 巻：職員の採用について、一般事務職や専門職の学芸員をとるなど様々あると思うが、実際北杜市で、学芸員は事業と比較し、足りているのか。

議長：北杜市役所では、学芸員の資格所持者は何人くらいいるのか。

長谷川：10名くらいいるかと思われる。

実際、資格を有していても、他の部署で仕事をしていることもある。

議長：その10人のうちに、郷土資料館や考古資料館等に、学芸員は何名いるのか。

長谷川：学術課の資料館担当でみると、正職員2名・臨時職員7人で構成され、その中で学芸員資格を持っているのは、3名。

平田家住宅は、シルバー人材センターへ委託し、津金学校は指定管理として、NPO法人へ委託している。

八 巻：採用については、学芸員としてのプロパーが必要と思われる。

現職の職員が在職しているうちに、その技術を伝えるなどしていくのが大事。

退職してしまってから採用ではなく、先を見据えた採用も必要になる。

八 卷：浅川兄弟まんが製作事業について、まんがは1冊いくらくらいになるのか。

また、小淵沢収蔵庫のトイレ改修事業について、トイレはバイアフリーやユニバーサルデザインなども考慮にいれないとならないのではないか。

長谷川：浅川兄弟まんがは、1冊1,000円から1,200円で販売することを考えている。

トイレ改修は、追ってそのことについても確認していく。

柴 山：臨時職員について、この先、任用の形態が変更になることを聞いたことがあるが、いつからか。

長谷川：会計年度任用職員制度で、平成32年度の4月からになる。

議 長：他に質疑または意見はないか。なければ次の議題へ。

### (3) その他

長谷川：「高根北小学校跡地の活用希望の取り下げ」について、資料により説明を行う。

鈴 木：学術課においては、高根北小は使用しないということか。

長谷川：学術課では使用しない。今後は、企画部管財課において、一般公募をするなどが考えられる。

議 長：他に質疑または意見はないか。なければ閉会とする。

### 6. その他

今年度の運営協議会は、今回が最後となる。

31年3月末をもって、現在の任期が満了となるが、事務局としては引き続きをお願いしたい。

### 7. 閉会

水原会長から閉会を告げる

(午後2時55分終了)

平成30年10月31日

会 長 水原 康道

署名委員 小池 勝

八卷 與志夫

書 記 長谷川、小林